

どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No. 22



どうぶつと私…(17)

Animals and I

明日の動物園

The Zoological of Tomorrow

矢 島 稔

東京動物園協会 理事長



つい最近、私は久しぶりに動物園の中で興奮し、その展示の前でうなってしまった。

スナドリネコが水面に頭をつけて魚影をねらう。バビルサが林の間から出てきて餌を食べている。草原の中に岩のように立止まったインドサイ。それは今までどこかで見ていた動物ばかりなのだが印象がまったく違う。

その理由は夜のうす暗い熱帯林そのものの中で見たからである。

数年前訪れたシンガポール動物園で私の専門が昆虫であることを知っていた飼育課長からホタルを沢山飛ばす方法をたづねられた事がある。いろいろ話をしている内に実は夜だけ開園する「ナイトサファリ」を計画中で、そのコースの中にホタルを乱舞させたいというのである。そして昨年シンガポールでは動物園の父と呼ばれているドクターオン御夫妻と幹部が来日した際、食事に招かれ、ナイトサファリが開かれた事を伺った。

そこで早速この目でたしかめるために出掛けてみた。暑い熱帯も陽がおちると涼しい風が吹き開園時間（午後7時半）までの1時間程家族や友達たちが連れ立って門の近くのレストランにやって来る。マイカーやバスやタクシーで。ナイトサファリはトラムとよばれる観覧用の自動車（80人乗り）に乗って約50分林の中を行く。

その時の様子の一部は冒頭に述べたように丁度月光りで夜行性動物をジャングルや草原の中で見るようにセットされている。

驚いたのはトラムに乗るために長い行列ができ、そのどよめきは遊園地のそれに似て昨今の動物園では久しぶりに接した混雑であった。聴くところによるとこれで入園者が20万人もふえたそうだ。

多摩動物公園でもかって林園長がライオンバスを走らせて、あっといわせた。私もおおよばずながら昆虫生態園を開設して昆虫のユートピアを創った。しかしそれらは施設である。

ナイトサファリは40ヘクタールのジャングルを使い舞台照明家にライティングさせている。従って無限の広さを感じさせることで、より自然に近い印象を与えるのに成功したわけである。

今や人々は新しい動物を見るためだけでなく新しい視点を求めて動物園に来る時代になったと私は思う。

目 次

表紙 ハシビロコウ	1
どうぶつと私⑰ 明日の動物園	2
グラビア アジアスイギュウ	3
開園十周年をむかえて	4
特集「注射の話」	5
飼育レポート カリフォルニアアシカの人工哺育について	6
動物公園の動物⑰ 動物公園の植物⑰	7
動物公園日誌から	8
飼育よもやま話	10
健康管理センターから 平成7年度 後期 行事予定表	11

表紙の動物説明

ハシビロコウ

アフリカ中央部のナイル川上流や湖沼地帯など人があまり近づかない場所で、単独あるいは番（つがい）で生活しています。

名前の由来でもある幅広い大きな嘴で、魚（肺魚など）やカエルなどを捕らえてたべます。

ハシビロコウは動物分類学的にも他に仲間がないユニークな鳥で、野生では1万羽程度しか生息していません。

撮影・清水 太郎

動物飼育数

哺乳類	69種	459点
鳥 類	88種	358点
爬虫類	4種	20点
両生類	1種	1点
魚 類	2種	7点
総 計	164種	845点

平成7年9月末日現在

アジアスイギュウ

Water Buffalo

偶蹄目 ウシ科



撮影 宮川 千尋

野生のアジアスイギュウはインド、マレー半島、ボルネオ、フィリピンなどに分布しています。

アジアスイギュウは、インダス川流域で紀元前2500年頃までに家畜化されたと考えられ、現在はアジア南部を中心に、南ヨーロッパや北アフリカで飼われていて、水田の耕作や荷物の運搬などの荷役の他、乳用としても非常に重要で、世界の乳の供給量の6%はスイギュウからえられているほどで、熱帯地方の家畜としてはなくてはならない動物です。

(秦 舜二 Shunji Hata)

開園十周年をむかえて

平成7年4月28日をもって、動物公園は開園十周年をむかえることができました。

これまでの園のあゆみにつきましては、他の出版物にまかせるとしまして、ここでは10年前の開園当初の模様をふりかえってみることにしました。



連日のように続く動物の搬入作業



開園式当日、きのうまでのぐずつした天候とはうって変わった晴天にめぐまれました



開園の模様を紹介した雑誌や、開園時のポスター



メインモールを埋める人、人、人、直後のゴールデンウィークと合いまって連日ものすごい数のお客さんでした



当時の飼育係の紹介記事

開園当初と今		
	昭和60年	平成7年
広さ(開園面積)	21.7ha	37.17ha
動物飼育数	108種 576点	166種 866点
園内の木	高木130種 11,825本 灌木 62種 92,263株	高木 161種 16,519本 灌木 75種 134,229株
職員数	1課3係32名	2課6係47名
どうぶつこうえんニュース	創刊号 B5 8P	22号 A4 12P
その年のおもなできごと	日航ジャンボ機墜落 豊田商事事件で、永野会長刺殺 阪神優勝フィバー	オウム事件 阪神大震災 多発する銃犯罪
ガソリン1ℓ	130円	105円
新聞代(1ヶ月朝夕刊)	2,600円	3,850円
金1g 8/15店頭小売り	2,550円	1,212円
為替 8/15終値	237.62円	94.90円
公定歩合	5.00%	1.00%
首相	中曽根 康弘	村山 富市
夏の高校野球優勝校	P L学園	帝京高校
(経済統計年鑑などより抜粋)		

注射の話

皆さんが注射をうたれるのは、どんな時ですか？まず、ケガや病気の時に抗生物質を打たれたり点滴をされたりしますね。それから、赤ちゃんや外国へ行く人が病気にかからないように打つ予防注射もあります。体に針を刺すという点では、検査のために血を採る事も注射の一種と考えて言いでしょう。菌の治療や小さな手術の時に麻酔薬を打つ事もあります。

動物園でもこんな時は、やはり動物に注射をします。つまり注射の目的は病気・ケガの治療、病気の予防、検査、麻酔のどれかにだいたい当てはまるだろうと思います。

注射の好きな人はいないでしょうが、大人なら「こういう訳で注射をします。」といえ、たいていは我慢して受けてもらえます。でも赤ちゃんや小さい子はどうか？恐ろしさや痛みで泣いたり暴れたり、時にはまわりの大人が押さえつけねばならない事もあるでしょう。動物園の動物も同じで、おとなしく注射させるものはほとんどいません。ですから押さえねばならないのですが、実はこれは動物にとっても押える人間にとっても、非常に危険な事なのです。特にケガや病気の時にはただでさえ弱っている体にさらに大きなストレスを加えることになり、また暴れて飼育係や獣医が思わぬケガをすることがあります。こういう時は、同じききめのある飲み薬を餌や水と一緒に食べてもらう方が、安全です。けれども食欲がないなどでどうしても薬を飲まない時、あるいは早く効いてほしい時、一刻を争う時などは注射に頼らざるを得ません。そこで少しでも押える時のストレスを減らしケガを避けるためには動物を網や袋、狭い枠に入れたり、スクイズケージ（天井や壁が動かせる狭め檻）に入れて間接的に押えたりと、動物によってはそんな小道具が役に立ちます。また、銃や吹き矢で動物から離れた場所から注射する方法もあります。

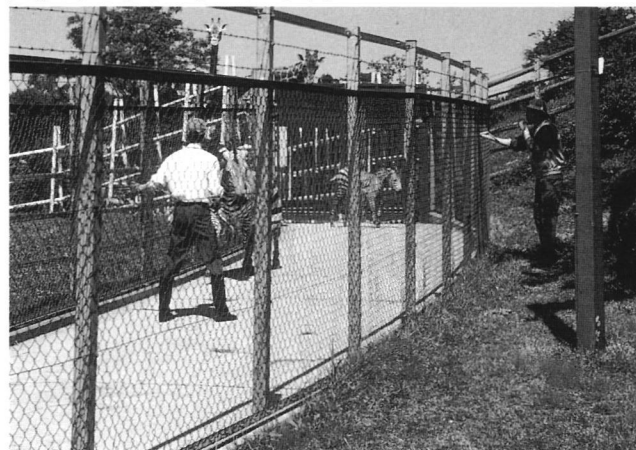
さて銃や吹き矢は別として、普通は動物の注射も人間用の注射器で行っています。注射器は針とピストン部の注射筒にわけられ、それぞれ色々種類がありますが、動物の種類や薬の量により使い分けています。昔は注射筒はガラス製で、繰り返し使っていました。しかし割れる危険があり、また繰り返し使うのも良くないということで、今ではプラスチック製の滅菌包装された使い捨て注射筒を使うことがほとんどです。

一方、麻酔銃と吹き矢は動物園ならではの方法です。麻酔銃は言わば空気銃で、圧縮二酸化炭素ガスで弾の代わりに金属製注射筒を発射します。その中には薬剤の他に火薬が入っており、これが動物の体に当たると、その衝撃で爆発し薬剤を体内に押し入れます。ただし、これは勢いが強いので近すぎるとかえってケガをさせる危険もあります。また取り扱いや保管にも注意が必要です。原理は同じですがそれより手軽なのが吹き矢で、プラスチック製の軽い注射筒を使い、その中には火薬ではなく圧縮したガスを注入します。吹き筒も普通の塩ビ管や金属管を手頃な長さ（1m以上が多い）に切っただけのものです。動物園では好んで使われ、各園でいろいろ工夫されているようです。しかしこの長い吹き筒が意外と目立ち、動物に警戒されやすいというのが玉にキズでありましょうか。いずれにしてもこれら



吹き矢のかまえ方

吹き矢用の注射筒、上が使用後、下が使用前、注射針の穴は先端ではなく針の途中に開いていてポリエチレンのカバーがついています。この注射筒が動物に刺るとカバーがずれて針の穴が露出し、筒の中の薬が後部のガスの力によって動物の体内に注射されるようになっていきます。



吹き矢を使った注射場面、ハートマンヤマシマウマに日本脳炎のワクチンを注射した直後、よほど痛かったのか飼育係の制止を振切って、この通路の奥（写真左下の方）へ走っていきましました。

は、大動物に向く方法です。

さていよいよ注射を打つのですが、その場所は目的や薬によって決まっています。よく打つのは筋肉内、皮膚と下の組織のすき間（皮下といいます）、血管（主に静脈）です。皆さんもこういった所に打たれたことがあると思います。例えば上腕やお尻に打つのは筋肉内、採血や点滴の時は血管です。皮下には割合多量の薬が入るので、栄養剤などには都合がいいのです。

以上、いろいろ述べてきましたが、私は注射の達人という訳ではありません。失敗したり知らなかったりで青くなった事も多くあります。薬や器具の発達は目ざましく、昔と比べると隔世の感がありますが、常に事故の危険があることには変わりません。これを安全に使いこなすには、日頃から慣れると同時にまた、毎回最大の注意を払う事が必要なのだと思います。

カリフォルニアアシカの人口哺育について

1995年6月4、5日にチコ、キキがそれぞれ出産しました。その当時キキの仔は元気な様子でしたが、チコの仔は胎盤が取れず、少し心配するような状況でした。その後、何とか2頭共無事に育っていきました。しかし6月4日に出産したチコが膣脱を起こしたので手術のため、親子を予備室に収容しました。チコの手術後の経過は良好に見えましたが7月8日、あっけなく死亡してしまいました。残されたチコの仔マユは乳をもらう親を失ってしまったわけです。私達はマユをどうするか、つまりもう一頭いる親のキキに付かせて乳をもらうようにすることも考えましたが、アシカの場合あまり自分の仔以外に乳を飲ませることがないので、結局残された道は人工哺育しかないと考えました。が、当園では今までアシカの人工哺育を経験したことがなく、急いで他の園館に人工哺育についての資料を提供してもらい、その資料の把握に努めました。早速7月9日からミルクを与えることにし、ミルクはエスピーラック犬用を水で希釈し、アジのすり身を加えたものを用い、7月9日の時点で体重が8.9kgあったので体重の10%を目標とし、ミルクを与えました。与えるといってもマユの場合、1カ月以上も親元で過ごし、乳をもらっていたので人用哺乳ビンでミルクを与えようとしても全然吸いついてくれず、哺乳ビンたるものが一体何なのかわからなかった様です。その為とにかく体重の減少を抑え、栄養をつけさせるため注射筒の先にカテーテルを付け、ミルクを胃の中に流し込むという方法を取りました。それと同時に哺乳ビ

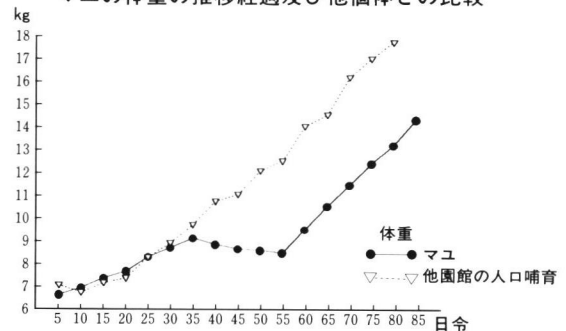


ンで自力で飲ますという練習を行い、自分でミルクを飲んでもらうようにすることが理想と考えました。そして2週間が経過しましたが、一向に体重が増えず、当初8.9kgあったものが8.15kgまで減少してしまったのです。この時点でやっとミルク濃度の計算違いに気付き、濃度を増やしていくことにしました。そうしたところ、ようやく体重の増加が見られるようになり、1日に約200g増していきました。試行錯誤の中、マユの糞状態をチェックしつつ、ミルク濃度を25%前後とし、今まで加えてきた魚をアジから脂肪量の多いサバに変え、そのミルクを体重の約15~17%を与えることによって体重増加が軌道に乗るようになりました。また哺乳ビンによる練習はなかなかうまくいかず、結局注射筒の先に付けたカテーテルを徐々に短くし、その先端から自分でミルクを飲ますという方法に切り換えていきまし



た。現在はこの方法で自力でミルクを飲むことに成功し、8月25日現在までに体重は13.4kgにまで増加しました。これは人工哺育の途中経過であり、まだ成功したとは言えません。これから体調チェック、体重増加を目指し、さらには離乳をさせなくてはなりません。離乳は3~4カ月(生後)、18kg程をメドとし、魚のすり身を与え、徐々にサバ、小アジ等を与えて様子

マユの体重の推移経過及び他個体との比較



を見ていく予定です。マユがうまく離乳し、段々に大きくなっていくことを希望し、そうなるようこれからも飼育していきたいと思います。また資料を提供して下さった油壺マリンパーク、南知多ビーチランドの方々には深く感謝したいと思います。

(水上 恭男 Yasuo Mizukami)

動物公園の動物…⑪

Animals the Chiba Zoological Park

アカハナグマ

千葉市動物公園にこの度、千葉市と姉妹都市である南米パラグアイのアスンシオン市より、アカハナグマの雄1頭、雌1頭が、寄贈されました。そこで今回は、そのアカハナグマがどうい動物なのか、展示より一足早くこのコーナーで紹介したいと思います。

食肉目アライグマ科の動物で、英名 [Ring-tailed Coati] といい、この [Coati] という名は、**帯と鼻**を意味するインディアン語の2つの言葉からついたものです。また、学名を [Nasua nasua] といい、これも**鼻**という意味があります。この名前からもわかるように、よく動く上向きの長く突きでた鼻づらが、アカハナグマの形態上最大の特徴です。体の色は、黄褐色がかかった赤色で、顔から鼻にかけては黒っぽく、目の上と下に小さな白斑があり、尾の部分には、輪状斑があります。頭から尾の先まで80~130cm、その内の半分以上を尾がしめます。体重は3.5~5.5kgです。

主に食虫性ですが、果実も好みます。子ゾウの様な長い鼻は、45度にも曲り、その鼻を自由に使いこなし地面につけ、エサの臭いを嗅ぎまわり、強力な前足と爪を使って、甲虫やその幼虫、アリ、サソリ、カニなどを掘り出して食べます。時にはカエルやトカゲ、ネズミを捕まえたり、カメやトカゲの卵を掘り出して食べたりする事もあります。



アカハナグマは、アライグマ科の他の種とは違い、日中に活動する事が多い動物です。雄は交尾期以外は、単独行動していて、雌と子供は2~15頭の群れを作り行動しています。雄と雌との行動が非常に異なっているので、長い間、彼らは全く違った2つの種だと信じられていました。南アメリカでは、アカハナグマを飼っている家も多くあるそうです。利口で愛想が良く、人によくなれペットにもなりやすいといわれています。が、その反面、怒りっぽい性質を持っており、また、好奇心が旺盛なこの動物は、いたる所を掘り、脚または、鼻を突っ込んで何にでもさわってみる行動力は、恐るべき破壊者にもなりうる動物です。

現在はまだ展示していませんが、近い内に皆さんの前に出て、大いにいたずらぶりを発揮してくれると思います。千葉市動物公園での一日も早いデビューを楽しみに待っていて下さい。

(古谷 保生 Yasuo Furuya)

動物公園の植物…⑦

The plants in the Zoological Park

タブノキ

動物公園には、喬木（スギやケヤキなどの高い樹木）が約160種・16,500本あります。

喬木には、落葉樹と常緑樹があり、園全体では、落葉樹の方が多く植えられています。

その内、常緑樹は喬木全体の2割ほどです。

今回は、常緑広葉樹のタブノキを紹介します。

タブノキは、別名イヌグスとも呼ばれ、クスノキ科の常緑喬木。



モンキーゾーン、サル島とサル山の間

分布は、本州では関東および中南部、四国、九州、小笠原、伊豆七島、主として海に近い暖地に自生するほか、社寺林などにも見られ、シイやカシ類とともに暖帯広葉樹林の主要な構成樹種。葉の表面はつやがあり、触るとなめし革のようになめらかで厚い。

樹は、成長が速く風にも強いので家の周りにもよく植えられ、潮風にも強く、防風、砂防の実用種でもあり、海岸の庭園及び公園などにも多く植えられています。

タブノキの樹皮には、水と混ぜると粘液を生ずる成分が含まれ、古来、「たぶかわ」と呼ばれ、線香や染料として使われました。

また、八丈島では、樹皮は褐色の染料としても用いられていました。

クスノキの様な芳香はないが、材は良質で建築、家具の細工物などに広く利用されます。

園内台地部分は整備前は畑であったため、常緑樹の高木は少なく、現在植栽されている殆どが整備段階で植栽されたものです。

また、サル島付近に植栽されているタブノキの大木は、昭和59年に近隣より移植されたものであり、現在は、公園利用者や動物たちの緑陰や防風などのほか、野鳥たちのすみ家として貴重なものとなっています。

(篠田 文男 Fumio Shinoda)

動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'95年 1 月 1 日～'95年 7 月 31 日

- 1 月 1 日 ゲルディモンキー、1 頭繁殖
- 1 月 3 日 マンドリル、雄の仔を出産するが、初産のためか、仔の面倒を見ず、仔はすでに死亡していた
1 日生まれのゲルディモンキーの仔死亡する
- 1 月 4 日 ホンドザルのボス（ズーム）死亡する
新春特別展「野武士の面影-イノシシ」開催（～31 日）
- 1 月 7 日 「新春特別行事」開催
- 1 月 11 日 アカテタマリン、1 頭繁殖
- 1 月 15 日 エミュウの卵、5 個孵卵器に入れる
- 1 月 16 日 「バードウォッチング」開催
- 1 月 17 日 ハイロコクジャク（雌）、1 羽科学館よりキジ舎へ移動
- 1 月 18 日 アルダブラゾウガメ（雄小）夕方死亡する
- 1 月 22 日 「ワンポイントウォッチング」開催（カンガルー）
- 1 月 25 日 ムフロン（'94 年生）の 5 頭に個体識別用耳標を装着
- 1 月 27 日 アミメキリン（雌アジム）、午前中放飼場で雌の仔を出産する
- 1 月 30 日 アフリカ A 放飼場柵交換工事にともない、ダチョウ用の仮パイプ柵を設置する
- 2 月 1 日 関東東北ブロック飼育技術者研修会開催（参加者 40 名）
- 2 月 6 日 ドウサンバ、蹄が痛いため日中横になっていることが多い
- 2 月 8 日 カリフォルニアアシカの仔（雄）1 頭、離乳のため母親から分ける
- 2 月 11 日 「バードウォッチング」開催
- 2 月 13 日 アミメキリン（雌ヤエ）出産するが、死産であった
- 2 月 14 日 ゾウ舎寝室の電柵、切断されたため 5 mm 径のものに交換する
- 2 月 17 日 千城台西中学校 8 名の職場訪問あり
" アミメキリンの母仔と雄親を放飼場で一緒にするが特にトラブルはなし
- 2 月 18 日 カンムリヅル、雌 1 羽死亡する
- 2 月 19 日 入院中のケープペンギン、1 羽死亡する
- 2 月 20 日 エミュウ、5 羽人工孵化する
- 2 月 22 日 ショウガラゴ、1 頭繁殖を確認
- 2 月 23 日 ケープペンギン（若）、換羽終了
- 2 月 26 日 「ワンポイントウォッチング」開催（アフリカハゲコウ）
- 3 月 1 日 ダチョウ、カラスにつつかれ出血する
- 3 月 2 日 セーブルアンテロープ、1 頭繁殖
- 3 月 5 日 小動物コーナー、混雑する
- 3 月 8 日 エミュウの孵化状況等の撮影取材あり（テレビ朝日）
- 3 月 11 日 「アニマルスクール」開催（声のひみつ）
- 3 月 12 日 ハイロヤケイ、雌 1 羽京都市動物園より受贈
- 3 月 14 日 カナダカワウソの展示場の遊具更新する
- 3 月 15 日 アカテタマリン、雄 1 頭死亡する
- 3 月 16 日 ハートマンヤマシマウマ（雌ヒマワリ）、1 頭出産
- 3 月 19 日 「ワンポイントウォッチング」開催（オランウータン）

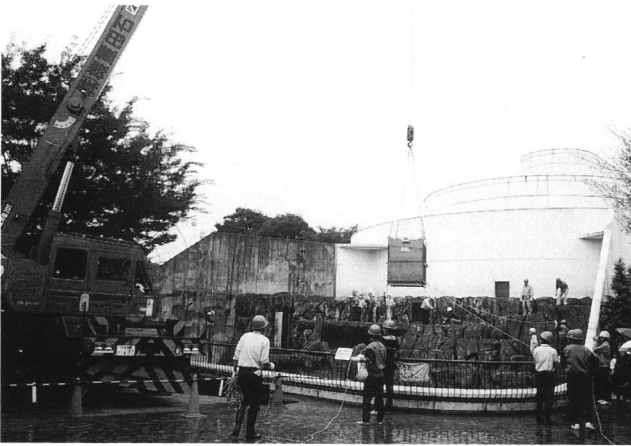
- 3 月 20 日 オオサマペンギン 4 羽、動物交換で新着
- 3 月 22 日 カリフォルニアアシカの仔雌 1 頭、離乳のため母親から分ける
- 3 月 24 日 水禽池に巣箱を 19 巣設置
- 3 月 27 日 アフリカ草原 A 放飼場、鉄柵工事検査終了したためボンテボック放飼場に出す
" アフリカ草原 B 放飼場、植栽植え替え工事
- 3 月 28 日 「クイズラリー」開催
- 4 月 1 日 ホンドザル、身体を掻く個体が多い
- 4 月 2 日 アジアゾウ、雄が雌に交尾を誘う行動がみられる
- 4 月 3 日 ピグミーマーモセット、2 頭繁殖
- 4 月 5 日 ムフロン、1 頭繁殖
- 4 月 8 日 ムネアカタマリン 2 頭、アカテタマリン 2 頭、ピグミーマーモセット 1 頭、それぞれ行川アイランドへ交換出し。ピグミーマーモセット、2 頭交換入れ
ムネアカタマリン 2 頭、南房パラダイスへ交換出し
カンムリバト、1 羽交換入れ
- 4 月 10 日 本日より飼育担当業務の配置替え実施
- 4 月 11 日 クロミミマーモセット、2 頭繁殖
- 4 月 16 日 キバシハイロガン、4 羽自然孵化
- 4 月 18 日 ヤツガシラ、2 羽自然孵化
- 4 月 20 日 ケープペンギン、1 羽人工孵化
" ^{カイセン} ホンドザル、疥癬の疑いがあるため、全頭捕獲し薬浴及び駆虫剤を注射する
- 4 月 23 日 ワンポイントウォッチング開催（アミメキリン）
- 4 月 24 日 ハートマンヤマシマウマ（雌エリス）、1 頭出産



- 4 月 28 日 特別展「開園 10 年のあゆみ」開催。（9 月 30 日まで）
- 4 月 29 日 検疫中のオオサマペンギン、1 羽死亡
- 5 月 2 日 イワトビペンギン、1 羽死亡（入院中の個体）
- 5 月 6 日 ツクシガモ、1 羽死亡
- 5 月 7 日 ヒツジの毛刈りと紡毛教室開催
- 5 月 8 日 オオサマペンギン 3 羽、検疫明けでペンギン池にて展示開始
- 5 月 10 日 カンムリバト 1 羽、検疫明けでバードホールにて展示開始
- 5 月 13 日 開園 10 周年記念特別講演会「美しい町は鳥も人も共に暮らす町」開催。（講師 杉森文夫氏）
- 5 月 14 日 「愛鳥週間記念講演会」開催
- 5 月 15 日 グレビーシマウマ（雌アイ）の過長蹄削蹄にそなえ鎮静実験実施



ヒツジの毛刈りと紡毛教室開催風景



- 5月16日 大阪市天王寺動物園より、ブリーディングローンで、ローランドゴリラ雄1頭新着。随行で、天王寺より、飼育課長中川氏、岡田飼育係来園
- 5月20日 ローランドゴリラ（雌モモコ）、天王寺から来た個体の臭いが気になるのか寝室にはいるのを渋る
- 5月21日 開園10周年記念特別講演会「マウンテンゴリラの生態」開催。（講師 山極 寿一氏）
- 〃 「ゆかいな森の音楽会」開催
- 5月22日 グレブーシマウマ（雌アイ）鎮静保定下で削蹄を行う



- 5月28日 開園10周年記念式典。「ローランドゴリラ一般公開」開園10周年記念特別講演会「動物園の昔、今、未来」開催。（講師 若生謙二氏）
- 〃 「ワンポイントウォッチング」開催（ハシビロコウ）
- 5月30日 ツクシガモ、3羽人工孵化
- 6月1日 ワタボウシパンシェ（雄1）、上野動物園へ寄贈
- 〃 エジプトハゲワシ（3羽）、オオタカ舎に移動する

それに伴いエジプトハゲワシ舎で、ハシビロコウ1羽を暫定展示開始

- 6月2日 クロヅル1羽、自然孵化する
- 6月3日 カリフォルニアアシカ（チコ）、1頭出産



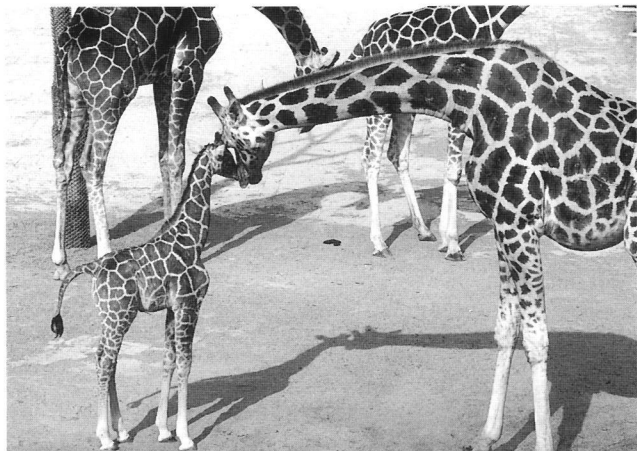
- 6月5日 カリフォルニアアシカ（キキ）、1頭出産
- 6月6日 ショウガラゴ、2頭繁殖
- 6月11日 ホオジロカンムリヅル1羽、他の個体に攻撃され起立不能となったため入院させる
- 6月15日 アジアゾウ（雄スラタラ）、ムスト状態続く
- 6月17日 マレーバク（雌ユキミ）、池の中で出産してしまい仔は発見時すでに死亡していた
- 6月18日 ゲルディモンキー、雌1頭死亡する
- 6月21日 クロザル（19日生の仔）、頭部打撲で死亡する
- 6月25日 ワンポイントウォッチング開催。（フクロテナガザル）
- 6月26日 ローランドゴリラ（雄ゴロ）、オランウータンの屋外放飼場に出す
- 7月1日 「動物愛護標語」募集（～30日まで）
- 7月3日 越谷市職員（安藤氏）、飼育実習に来る。（～7月7日まで）
- 7月6日 ダチョウ（雌）、カラスにつつかれ背中より出血する
- 7月7日 ツクシガモ2羽、人工孵化する
- 7月8日 カリフォルニアアシカ（雌チコ）、膣脱の治療をしていたが、子宮破裂をおこし死亡する。従って仔（マユ）は、本日より人工哺乳とする
- 7月10日 ホオジロオナガガモ2羽、人工孵化する
- 7月11日 カリフォルニアアシカ（仔マユ）、1ヶ月程母親のミルクを飲んでいたので、当分の間カテーテルで強制哺乳とする
- 7月12日 動物交換で、アカリュウキュウガモ（雌）1羽新着
- 7月13日 ヤク、1頭（雌）繁殖
- 7月19日 アカテタマリン4頭、ムネアカタマリン4頭、南紀白浜アドベンチャーワールドへ寄贈
- 7月26日 第11回サマースクール開催。（28日まで）
- 〃 今夏も猛暑のため、ヤク舎に壁かけ用扇風機を設置する
- 7月29日 ゲルディモンキー1頭、繁殖。（人工哺育とする）
- 7月30日 アカハナグマ（雄1、雌1）、アスンシオン市より受贈

飼育よもやま話

Animal Episode

キリンの出産

今年1月27日に、キリンの「アジム」が午前10時30分頃、展示場で出産しました。3度目の出産ですが、今までは夜間に寝室で出産していたのに、今回どうしたものか展示場で出産したものですから、赤ん坊は2時間程で立って歩けるようになりましたが、冬の寒さで体の震えがとまらない状態で、早く暖かい寝室にいれようとしたのですが、動物と話ができる獣医の物語「ドリトル先生」みたいにうまくいかなくて、母親「アジム」は、此方の思うような行動をとってくれないどころか、赤ん坊に近づくものなら攻撃してくる有様で、結局アジムと赤ん坊が寝室に入ったのは、午後3時を過ぎていました。赤ん坊は、身長約170cmのメスで、アジムのムをとって「ムツキニーナ」と名付けました。



あれから7カ月がたち、愛称「ニーナ」は元気に育ってくれ、身長も寝室の高さ250cmの餌入れに顔が届くまでになりました。「ニーナ」を見ていると、キリンの仔はキリンで当たり前ですけど、「何でこんなに首が長くなったのだろうか」という疑問がでてきます。キリンの場合、首の短い祖先の化石は見つっていますが、現在の長い首になるまでの間の化石が見つからない為、ダーウィンの進化論による「適者生存」や「自然淘汰」の考えでは無理があります。そこで、「キリンの首は、徐々に伸びたのではなく、一気に進んだのではないか」とするウィルス進化論ができました。ダーウィンの進化論では、DNAは親から子へしか移動しないと考えられていますが、ウィルス進化論では、ウィルスは宿主である細胞のDNAをもって、他の細胞のDNAに入り込むことができ、「キリンは、首が長くなる伝染病にかかった。」という考えです。

さてニーナは、先に生まれた兄妹同様に他の動物園に出ていく運命ですが、野生のキリンは子供を5～7頭、集めて育てますが、動物園の展示場でも、そんな子供同志で遊ぶ光景が見られればおもしろいのにと、子供達が出ていくたびに思います。

(佐藤 幹雄 Mikio Sato)

元気になったカピバラの「ボス」

もう梅雨も明けかけた7月7日、カピバラの雄、「ボス」の様子が変です。腰がふらついてうまく歩けず、じーっと運動場の隅でたたずんでいます。

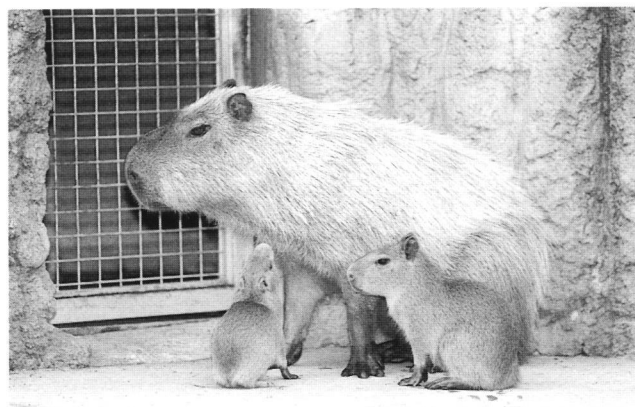
目も半分閉じかけて、うつろです。そういえば2、3日前から少し食欲も落ちて、好物のサツマイモも残しきみでしたっけ。あの、ころころの丸くて光り輝く「フン」も昨日からまったくしていません。

それに、大好きなブラッシングも、あまりさせてはくれません。時々、亀の子タワシでからだをこすってあげると、今までは目を細めて「もっと」と催促してくれたのに。

大きな体をそこにゴロンと横たえて、首を垂れてじっとしている姿は、一刻を争う事態のように見えます。

獣医さんと相談して、とりあえず浣腸を試みました。部屋を暖め、消化の良い煮野菜も与え、敷きワラたっぷりにしてみます。採尿もしたいということで、雌の部屋にも入れてみました。雌の匂いのついたワラによく排尿するからです。ボスは匂いに触発されたのでしょうか、雌の部屋に入って10分ほどして尿をしてくれました。

11日、やっと少しだけ糞をしてくれました。クローバーやサツマイモならよく食べるようになりました。12日朝、粘液性の糞と、この日午後から、少ないながら正常のコロコロ糞も見られ始めました。夕方、雌といっしょに池にはいり、互いに挨拶を交わします。



ようやく回復し、一安心です。ボスはまた、ブラッシングのおねだりをしてくれるようになりました。

昨年の日誌を見てみると、やはりちょうど梅雨明け頃、2、3日食欲がなく、糞も少ない時期がありました。ボスにとって6、7月は要注意だと言うことでしょう。

今は、かわいい子供たち（8月23日生れ）のおとうさんとして、子ども動物園の人気者になっています。よかったね。

(並木 美砂子 Misako Namiki)

健康管理センターから

From the Animal Health Center

ホンドザルの疥癬^{かいせん}

動物公園の「サル山」では、現在36頭のホンドザルの群れが暮らしています。

この群れの中に今年の春から、徐々に毛づやが悪くなり、体のあちこちの毛が抜けて皮膚が赤くなったり、白い粉をふいた様な状態になったり、しわ状になったりして、その部分が痒いのか体のあちこちをいつもボリボリと掻きむしるサルが目立つようになってきました。

そこで皮膚の状態のひどいサルを数頭網で捕え、麻酔をかけて毛の抜けた部分の皮膚の付着物を取り、皮膚の検査をしました。すると、その内の何頭かから、疥癬虫というダニがいくつか見つかりました。皮膚の病気はこの「疥癬」ということが分かりましたが、一体30数頭のサルのうち、何頭がかかっているのでしょうか？ 外見上、全く毛並みに異常が見られないサルもかなりの頭数いますが、サル同士でお互いに毛づくろいをするので、疥癬はその時にうつる可能性があります。

結局、治療はサル山のサル全頭を対象にすることにしました。捕獲は室内の小室の出口から捕獲網へ1頭づつ追い込み、網ごしに駆虫薬を皮下注射し、その後サルが入った捕獲網ごと2種類の殺虫薬を希釈した薬液で満たした特大のバケツに入れて、頭のとっぺんから足の先まで薬浴をします。

治療をする時、殺虫薬の飛沫を浴びるので、人の方はカッパを着てマスク・手袋をした重装備で行います。その時はホンドザルは33頭いましたから、全頭を治療するとサルの方もいい迷惑でしょうが人の方もクタクタに疲れてしまいました。



薬浴も疥癬虫の虫体には効果がありますが、卵には抵抗性があるので、数週間間隔をあけて反復して行わなくてはなりません。とりあえず、全頭捕獲して治療を3回行い、様子を見ることにしました。2回目、3回目はサルも「さる者」前の事を覚えていて捕獲するのにこずりました。

また、これと並行して、獣舎内の殺虫剤散布も数回行い環境からの再感染を防ぎ、かゆみ止めの薬をえさと共に投与しました。幸いにも、治療の回数を経る毎に体を掻くサルの個体数も減り、全般的に毛並みも良化傾向を示すようになりました。皮膚の病変が進んでいた個体も毛が抜け変わり、被毛が元の状態に近くなりました。

現在はホンドザルの疥癬もほぼ終息したと思われます。

(中村 誠 Makoto Nakamura)

平成7年度後期行事予定表

行 事 名	期 日	内 容
アニマルスクール	10月14日 11月25日 3月9日	標本等を使用し、動物の生態を解り易く紹介し、動物に対する疑問に答えます。
写真コンクール	募集10月10日まで 展示11月1日～30日	動物公園内での、動植物とのふれあいを題材とした写真を募集します。
自然と遊ぶ教室	10月15日	草木や木の実で遊びながら自然と親しんでいただく教室を開催します。
動物を計る会	10月29日	動物を通じて、計ること、「計量」に対する意識を高めて頂くために開催します。
ZOOクイズラリー	11月3日 3月20日	動物のクイズを通じて、動物の正しい知識を学んでいただくために実施します。
クリスマスのつどい	12月10日	動物のお話を聞いたり、ツリーの飾りを作ったりします。
新春特別展示	1月4日～31日	干支の動物の「ネズミ」を写真やパネルを使って紹介します。
新春特別行事	1月6日	新春にちなんだ催物を開催します。
バードウォッチング	1月14日	園内の大池周辺に見られる野鳥の観察を行います。
特別展	通 年	動物のツノを解り易く紹介します。
ワンポイントウォッチング	11月、3月の第4日曜日	ある動物にスポットをあてて、飼育担当者から直接話を聞きます。
動物映画会	日曜日・祝日・春、夏休み	動物をよりよく知っていただくために上映します。
ズーシネマ	10月28日 11月11日	第二・四土曜日に子供達を対象に映画会を開催します。



チンチラ